

◎ミッション2030◎ ニュースレター VOL.3

[新しい協働]フォーラム

第3回「共同体の扉を開く——コロナ禍の今、『信徒の交流』を考える」

イグナチオ教会では2017年度から「ミッション2030」に取り組み、「祈りを深める」「福音を伝える」「共同体を生きる」という各柱で、順次ワークショップを行ってきました。

今年度は「新しい協働」をテーマに、司祭、修道者、信徒の区別なく連携していくことを目指して、教会活動を広く見直すためのフォーラムを全6回の予定で開催しています。

第3回目のフォーラムは2021年10月17日(日)に行われ、信徒交流に関係する8つのグループが活動内容、課題、問題点などを報告し、発表後にはオンライン参加の皆さまとともに分かち合いが行われました。

英神父さまのお話

新型コロナウイルスについては、専門家が指摘するように第6波がやってくる可能性もありますが、新規感染者は劇的に減ってきています。そろそろアフターコロナに向けて、教会活動再開の準備を進める時期です。そのために真剣に考えなければいけない課題をいくつか挙げてみましょう。

一つは「信徒の高齢化」です。活動グループのなかには高齢化が進み、コロナ以前のような活動ができないところもいくつかあります。とくに典礼関係のグループで危機的な状況に陥っているところがあると聞いています。信徒の高齢化は以前から問題になっていましたが、コロナ禍に入ってより深刻になってきたといえます。

もう一つの課題は、「共同体のつながり」です。もともとこの教会は都市型の教会で人のつながりが弱い傾向にありましたが、加速した感があります。

コロナ対策としてインターネットを利用したミサや講座の配信が始まり、オンラインでのつながりができたことは大きな実りですが、

それだけでは弱い。共同体のつながりをつくる上で不可欠なのは、時間と空間の共有です。ちょっとした空き時間に雑談したりすれば、親しくなります。お茶や食事に行ったりすれば、さらに親しさは増すものです。そうしたリアルなつながりを、今後どう回復していくか。どのように広げ、深めていくかを考える必要があります。

今回のフォーラムに集まってくださった信徒交流関連グループは、このような課題の解決の鍵を握っています。コロナ後を見据えて何をすればよいのか、どんな工夫ができるのかなどを分かち合い、今後に生かしていきましょう。

信徒交流関連グループの報告

◆はじめの一步

受洗後3年までの方と代父母を対象にした「新受洗者と代父母のためのフォローアップ講座」の企画運営に携わり、祈りや典礼の知識を深める講座、黙想会などを開催。参加者同士の仲間づくりにも力を入れている。

昨年は2回の開催にとどまったが、今年度は5回を予定。9月には

Zoomで講座を行い、その録画をYouTubeで限定配信した。

今後は代父母養成という点で他グループとの協働を考えている。

◆受け皿グループ

新受洗者、転入者、改宗者などに当教会のことを知ってもらい、積極的に教会活動に参加したり、信徒同士の交流を活発にしていこうと目指している。活動の大きな柱は、年2回開催している『教会オリエンテーション』である。昨年度はコロナの影響でほとんど活動することができず、新受洗者等が約400名に上るため、来年2月までに計4回のオリエンテーションを予定している。

『日曜サロン』の一角でミニ・オリエンテーションを行ったり、『はじめの一步』と共同企画をしたり、他グループとの協働も行っている。

◆次回予告◆

第4回「新しい協働フォーラム」は2021年12月12日(日)13時～15時の予定です。テーマは【主を賛美して共につくる—『教会の行事』を考える—】です。詳細はホームページ、ポスター等をご覧ください。

◆メリエンダ

1985年から、ミサ後の信徒の憩いの場となるようコーヒーや紅茶などのサービスを始めた。ポルポロン、トルテリアなど、当グループから独立した活動グループもある。

現在はスタッフ15～16名で、毎週日曜日の8時に集まって準備をし、9時から14時までテレジアホールで開催している。コロナ禍で活動休止中だが、一日も早く再開することを望んでいる。

◆ふれあい広場

主日の9時半頃から回廊で活動している。活動の目的は、信徒の皆さんの要望を信徒同士で解決していくこと。なかでもとくに「キリスト教関連の本を探している」という要望が多いことから、現在は古書の提供が主のようにになっているが、皆さんの要望も掲示板に貼りだしているのを利用してほしい。

今年度は活動休止中だが、来年度は少しずつ再開していきたい。

◆日曜サロン

当教会は立地的にも規模的にも仲間づくりがしにくく、孤立し、信仰から離れてしまう信徒も見られる。その解決の一助として、初対面同士でも気軽に交流できる場を月2回、ヨセフホールで開催し、ハーブティのサービス、来場者の話し相手、質問への対応などを行っている。同じような目的をもつ他グループとの協働も積極的に進めている。対面の交わりを重視しているので、どのような形で活動を再開するか模索中である。

◆シャロンのバラの会

代父母へのサポートを通して、受洗者が共同体の一員として自立し信仰を深めていくこと、代父母

と受洗者が互いに成長し、豊かな信仰生活を歩んでいけるようにすること、この2つを目的に活動している。今後は関連グループと協力しあって、入門講座ヘルパーへのアンケート、代父母サポートの交流の場や勉強会の開催などを考えている。

◆マリア会

1949年4月、当教会が献堂した年に活動を開始した。8時半ミサの聖堂奉仕、バザー献品の仕分け、イースターエッグの作製と配布、枝の主日の枝切などの他、月1回の例会でロザリオの祈り、聖書の学び、担当司祭であるフローレス神父さまの講話などを行っている。

◆生きた共同体の分かち合いの会

約5年前に発足。主日の午後に集まり、家庭のことや介護のことなど自由に気軽に気持ちを吐露しあう分かち合いを行ってきた。コロナ禍で分かち合いを休止して以降はメンバーでグループミサに参加するようになり、現在はグループを作れない方なども積極的に受け入れている。コロナが落ち着いたら、平日にも分かち合いの会を開催できたらと考えている。

◆壮年会：(フォーラム欠席のため活動概要を紹介)概ね30歳以上の壮年男性信徒の会。主日8時半ミサの聖堂奉仕、教会行事の支援、聖書の勉強会、司祭の講話などの他、各々の社会経験を踏まえて教会内のさまざまな課題を議論し提言するなどの活動を行っている。

*前述のグループ以外に「教会案内」「ウェルカムテーブル」が信徒交流関連グループです。この2つの活動については過去のフォーラムで報告済みですので、ここでは省略いたします。

信徒の分かち合いから

各報告の後、ヨセフホールに来られた方、インターネットで参加された方々が分かち合いを行いました。抜粋してご紹介します。

「日本人と外国人と一緒に活動できる場が少ない。各国の料理をメリエンダや日曜サロンで紹介することなどから始めてはどうか」

「入門講座や代父母を通して新受洗者を活動グループに導くことで高齢化対策になりそう。インターネットが苦手な方のために、パソコンの勉強会などがあると良い」

「今フォーラムのようにグループの活動内容を紹介することは、つながりを作る上でも大切である」

英神父さまのまとめ

活動グループというのは核になる人たちが必要ですが、固定メンバーだけで活動していると先細りします。門戸を開いて新しい人たちを迎え入れることでつながりが生まれ、活動もより活性化していくはずです。コロナがもう少し落ち着いてきたら、講演会なども開催できるでしょうし、日曜サロンやメリエンダといったリアルなつながりの場も再開されるでしょう。Eメール、教会報、掲示板などあらゆる手段を使い、意識して声かけや告知の機会を作り、つながりを広げていきましょう。

今夏、各言語圏の若者が集まって「イグナチオユースデー」を開催しました。10月の教会祭では、日本語、英語、スペイン語、ベトナム語の四言語でインターナショナルミサも行われました。各言語圏の協働が進んでいることは喜ばしいことです。